



全教北九州

新聞 全教北九州
全教北九州市教職員組合
発行責任者 中川喜久子
2023年9月29日

全教北九州

検索

学校事務職員の働き方 特集

この新聞はすべての教職員に配布しています

多岐にわたる業務内容、過度な業務量で疲弊する学校事務職員

働き方改革に逆行する事務補助員の未配置問題

全教北九州市教職員組合事務職員部は、8月に学校事務補助員未配置校67校を対象としたアンケート調査を行いました。調査は今回で3回目となります。調査では、厳しい業務の実態、生活や健康の不安が明らかになりました。深刻さを増す学校事務職員の業務改善の喫緊の問題です。

調査の内容について

主な調査内容は次の6項目です。
① 時間外勤務手当の申請状況
② 4月の業務実態
③ 5月、6月の業務実態
④ 管理職の業務分担に関する肯定的理解度
⑤ 日常生活への影響
⑥ 今後の業務改善のあり方と方向性、教育委員会などへの要望

調査には、18校から130件の意見・要望が寄せられました。調査へのご協力ありがとうございました。

疲弊する未配置校の学校事務職員

未配置となった学校では、仕事を1人で行うようになったため、4月には、来客や電話への対応に加え、旧県費の仕事の他に校納金や給食申請の立ち上げのための事務処理、会計年度任用職員の書類作成、就学援助の認定業務、さらにタブレットに関する作業を任されるケースもあるなど業務が多く加えて期限が短いものもあるため、残業で乗り切る実態があります。

4月以降も、多忙な実態は変わらず、自分の健康管理、子育て・介護に十分な時間が取れないなど学

校事務職員の健康と生活にも影響が出ています。

個人や家庭を犠牲に成り立つ仕事はあってはなりません。学校事務職員の業務改善は喫緊の課題であり、全教北九州は改善を強く求めています。

「働き方改革」に逆行する学校事務職員の働き方

現在、学校事務職員には教育支援への関与が求められています。

全教北九州は、学校事務職員は事務が主体であり、教育支援は各人が状況に応じて関与すべきと考えています。

教員の業務改善として教育支援が求められ、本来の業務が後回しになるという状況が増えています。

調査では「学校事務職員に事務だけさせたいのか、学校運営・教育活動に参画させたいのか、(中略)どちらもは無理…」という悲痛な意見がありました。相談相手もなく、職場での立場や位置づけが弱い事務職員は、管理職に従わざるをえません。また、残業により健康を害する職員の増加は、働き方改革に逆行するといふ意見も多

くありました。

仕事に希望が見いだせる日を再び

先日「このままでは事務職員をやめなければいけないかもしれない。」と電話がありました。調査でも「仕事に希望が見出せるようになる日がまたくることを願っています。」という声がありました。

学校事務職員は仕事にやりがいや誇りを持ち、仕事を通して学校教育を支えています。調査では「職務内容に納得できない」「市教委には期待がもてない」「待遇が悪く、モチベーションが下がる」などへの不満がみられました。また労使の信頼関係の構築に問題を投げかける声が多数寄せられました。

必要な取組は明白、全教北九州の要求

全教北九州は教育委員会に対してボトムアップの組織運営を求めています。調査でもトップダウンの組織運営への批判がありました。「心理的安全性」が保証されない現場で教職員は疲弊しています。今回の調査でより良い学校づくりに必要なことが明らかにになりました。

全教北九州は、調査結果をふまえて次の4項目を強く求めています。

- ① 学校事務補助員の全校配置
- ② 標準職務表の見直し
- ③ 公平な昇任と主査合格者数の増加
- ④ 新しい方針を検討する際の組合の参加

北九州の戦争遺跡

小倉衛成病院 (小倉北区)

1875年、小倉城内に歩兵第14連隊と併せて「小倉官所病院」が設置されました。官所病院は88年に「小倉衛成(えいじゆ)病院」となります。患者の定員は駐留する兵員の三分五厘と定められており、「小倉市誌統編」によれば敷地面積は約1万3千平米、定員は92人でした。

日清・日露戦争中は、「小倉陸軍予備病院」として運用されます。また勤務していた軍医・看護卒を中心に野戦病院等が編成され、戦地に派遣されています。不足する人員は日本赤十字社が派遣した医師・看護師や志願した開業医・勤務医などが補いました。

98年の第12師団設置により兵員の数が増えたため99年に北方に新築移転しますが、城内の病院も「田町分院」として1919年まで存続しました。

跡地は、「陸軍小倉造兵廠」となり、現在は「福岡法務局北九州支局」などが入居する「小倉合同庁舎」の敷地となっています。

憲法と子どもの権利条約がいきで輝く教育と社会を確立しよう

学びあい語りあつ充実した3日間

「教育研究全国集会2023」東京

8月18日から20日にかけて、東京都内で「みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい（教育研究全国集会2023）」が開かれました。全教北九州からも9名が参加し、全国の教職員や研究者、保護者市民と学びを深めてきました。



授の山本由美さんの挨拶などのあと、立教大学教授の浅井春夫さんの講演「子どもを大切にす教育実践と国の在り方を探求する」子どもへの無関心の政治に抗して、私ができること」がありました。子どもを大切にす教育実践は子どもの事実・現実・真実に関心を持ち続けることや、「あらたな戦前」となる可能性が大きい時代に政治的教養は子どもたちにも教職員自身にも必須であることなどが話されました。

講演後、給食無償化、子どもの基本条例、障害のある子どもの学ぶ権利の保障、自治活動の保障、大学「改革」等、公教育を守り拡充するための東京でのとり組みがリレートークで報告されました。

フォーラム

- ▼夜は、都内各所で
- ▼子ども時代をデザインする
- ▼どうする？教育DX
- ▼多様性を尊重する社会と教育

18日、東京都北区で全体集會が開催されました。集會は、障害を持った方を中心としたダンスグループによる思いの表現在輝いたパフォーマンスで始まり、実行委員長で和光大学教

とは

▼戦争ではなく平和の準備を子ども・若者とつくる平和▼地域の学校を守る共同の力▼統廃合、民営化ストップ

「どうする？教育DX」では、法政大学教授の児美川孝一郎さんをコーディネーターに、4人のシンポジストと参加者で討論しました。基調報告で児美川さんは、公教育を「市場」として開放し、企業による営利活動が自由にできる場として学校を縮小・解体する国家戦略のねらいがあることを指摘しました。

基調報告を受けて4人のシンポジスト（小学校教員、NPO法人「ガリレオ工房」職員、保護者、教科書出版社の社員）がそれぞれの立場からの発言がありました。フロアからの質問や意見も交え、「教育DX」が教師を脱専門職化している課題、培ってきた教育遺産の豊かさをどうとらえるか等、さまざまな視点で語られました。

19日からは2日間に渡り、18の分科会が開催されました。初めて参加した先生の感想

みんなが安心して過ごせる学校に！

教育全国署名、北九州でスタート集会

9月2日（土）八幡西区生涯学習総合センターで、全教北九州も参加する「少人数数学級の実現を求め北九州市実行委員会」主催の「スタート集会」が開催されました。



学校現場からの報告、保護者署名をおこないました。「子ども（通う学校の）教室は子どもでいっぱいですよ。」と署名をしてくださる方もいらっしゃいました。

フルーツの秋を楽しむバスハイク

9日 組合・共済会「ぶどう狩り」

9月9日、全教北九州と全教北九州共済会の共同企画として川崎町の杉本農園に「ぶどう狩り」に行きました。子どもを含めて29人が参加しました。

天気にも恵まれ、参加者はぶどう狩り、なし狩りを楽しみました。帰路「道の駅おおとう桜街道」では昼食と産直野菜などを購入し、参加者同士の交流もアイクとなりました。

